

令和6年度ウェルネスバレー推進事業 事業計画書

1 これまでの活動実績と今後の課題

平成23年(2011年)に活動を開始したウェルネスバレー推進協議会(以下、「協議会」)は、「健康づくり(ウェルネスバレーめぐり、グリーンツーリズム)」、「医療」、「福祉」「新産業育成(製販ドリブン事業、医福工連携)」で取組を進め、ウェルネスバレーの取り組みの認知度向上、健康づくりの機運醸成、新産業育成等において、一定の成果をあげてきた。令和3年(2021年)11月に開催された協議会で新たな課題を整理し、協議会の活動を5年間延伸することを決定した(令和9年3月、2027年)。

【新たに取り組むべき課題】

- ・6次産業化や有機農業が注目される中、年間約200万人が来場するげんきの郷が立地する「健康交流ゾーン」を中心とした農業の成長支援は「農と食」を推進する上で大きなポテンシャル。
- ・「医療福祉ゾーン」は一定程度の土地利用が進みつつある一方で、今後「健康産業ゾーン」の活用は重要課題。
- ・医療介護現場でもデジタル化やロボットの導入等が進む中、ICTやアプリ、システム開発等に力を入れ、近年脚光を浴びている「スタートアップ」(ベンチャー企業、新興企業)との連携を進めていくことも重要。

令和5年度は上記課題を踏まえ、ウェルネスバレーの集積、価値を高め更なる集積活性化に向けた活動を進め、医療福祉ゾーンに介護福祉事業所が開所し、健康交流ゾーンに直売所が開園した。健康産業ゾーン内の一部「大府東浦地区」では愛知県企業庁、大府市、東浦町による地権者説明会の開催や開発計画の検討を進めた。また、スタートアップとの連携では愛知県知事から県内2番目のSTATION Ai パートナー拠点に位置づけられた。さらに、第17回ウェルネスバレーめぐりでは前年度23%の参加人数増加や、参加者のウェルネスバレーの認知度が半数を超えるアンケート結果を得た。

ところで、昨年6月に認知症基本法が成立し、また愛知県が9月に超高齢社会の課題解決のため、あいちデジタルヘルスコンソーシアムを発足させた。また、今年10月には愛知県が推進するスタートアップ中核支援施設STATION Aiが開業する予定である。

令和6年度はこれまでの方針を維持しつつ、こうした国や県の動向も踏まえながら、幸齢社会の実現に向けて取り組みを推進していく。

2 令和6年度事業計画

(1) 事業実施方針

- ①「幸齢社会の実現」「健康寿命の延伸」、また健康を害した方も生きがいをもち生活できる社会の実現に向けて活動を展開する。ここ数年医福工連携マッチング事業に代表される新産業育成事業をはじめ一定の成果をあげてきつつあるが、前年度に引き続き、「農」「食」についての活動も取り組む。
- ②スタートアップとの連携については、STATION Aiの開業を踏まえ、同パートナー拠点の位置づけを活かし、更なるウェルネスバレーの活性化や集積の充実に向けて取り組む。また、地元の製造業を中心に、自動車産業のEV化、カーボンニュートラル、デジタルトランスフォーメーションなど動きが加速し、加えてこうしたサービスを手掛けるスタートアップも多く存在することに鑑み、本協議会が得たSTATION Ai パートナー拠点の位置づけのメリットを、協議会構成員の商工会議所、商工会、げんきの郷など、ヘルスケア分野以外にも活かしていく。
- ③健康産業ゾーンにおいて、愛知県企業庁による「大府東浦地区」の事業実施にむけて引き続き、検討を進める。

- ④ウェルネスバレー地区の交流・にぎわいの創出に向けて、「第18回ウェルネスバレーめぐり」を開催する。

(2) 事業概要

①協議会等の運営

- ・ 協議会（1回）では、事業全体を統括するとともに、ウェルネスバレーを取り巻く地域内外の動向と今後のウェルネスバレーの姿などを共有する。
- ・ 運営委員会（2回）では、事業計画、予算、決算等の協議、承認の他、個別事業の効果的な推進や管理、自立的基盤の構築、今後のウェルネスバレーの姿について検討する。
- ・ ヘルスケア産業振興ワーキンググループ（2回）では、医福工連携、民間企業やスタートアップとの連携、施設で共通して取り組める活動（例 人材確保）の企画立案実行を担う。
- ・ 交流・にぎわいワーキンググループ（3回）では、「ウェルネスバレーめぐり」を中心に、交流とにぎわいが創出され、地域の内外より人を呼び込む活動の企画立案実行を担う。

②ヘルスケア産業振興ワーキンググループの具体的活動

ア 全体的な方向性

- ・ 情報、資源、ネットワークが豊富な愛知県、国、近隣自治体、関係団体との連携を更に強め、ウェルネスバレーの発信強化と、ウェルネスバレーへの支援強化機運を高める。
- ・ プレスリリース、セミナー、ネットワーク等を活用した発信や、展示会、商談会等への往訪・情報収集を通じた“プッシュ型”営業により、ウェルネスバレーの存在価値を向上する。

イ 個別事業

- ・ これまで収集したアイデアボックスへの提案や構成員が抱える「医療」「介護」「農」「食」にかかる課題解決に資する医福工連携マッチングを引き続き実施する。前年度に引き続き国の中小企業支援専門機関である中小企業基盤整備機構中部本部と連携し、マッチング件数の増加や支援に厚みを持たせていく。
- ・ スタートアップとの連携について、愛知県知事からの STATION Ai パートナー拠点への位置づけを契機とし、10月開業予定の STATION Ai との連携イベント「Wellness Valley Startup Day」を年度内に開催する。また、スタートアップとの連携相談を加速する。また、前年度に引き続き、愛知県や STATION Ai、民間企業などが実施するプログラムやセミナーへの参加・共催・後援等を進める。
- ・ 「農」「食」における連携の具体化を進める。前出のアイデアボックスへの提案案件や新規の課題解決に取り組むことに加え、ひがしうら Re-Bone グルメなど「食」を通じた健康づくりに取り組む。適宜至学館大学をはじめとするウェルネスバレー機関と連携する。
- ・ 心身ともに充実した生活基盤である「美」に基づく取り組みも検討する。
- ・ 実証フィールドの提供では、ウェルネスバレー実証フィールド活用料規程に則る活用料に加え、企業版ふるさと納税等への誘導も試みる。

③土地利用の促進

- ・ 健康産業ゾーンにおいて、愛知県企業庁による「大府東浦地区」の事業実施にむけて検討を進める。
- ・ 健康産業ゾーンの開発のために養父森岡線などの道路整備を進める。
- ・ 地域住民で構成されるウェルネスバレーまちづくり委員会を開催する。

④交流・にぎわいづくりワーキンググループの具体的活動

- ・ 更なるにぎわいの創出に向け「ウェルネスバレーめぐり」を秋期に開催し、新規参加者、地域外からの交流人口を増加する。「あいちウェルネスマルシェ」との連携や「バイオリン/フィドル音楽の休日」を共催者として開催する。